

「令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【日吉台小学校】

令和3年5月27日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている内容に基づく。 〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと	B
算数	学習指導要領第2章第3節算数における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

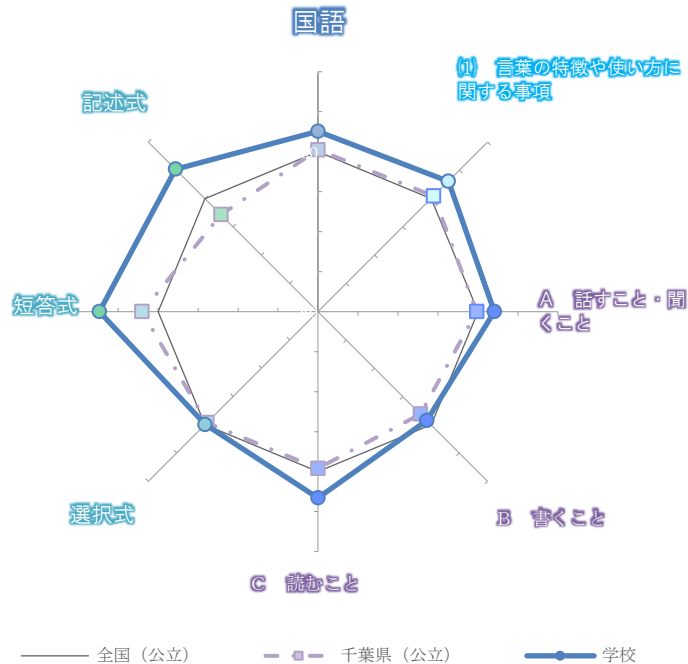
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



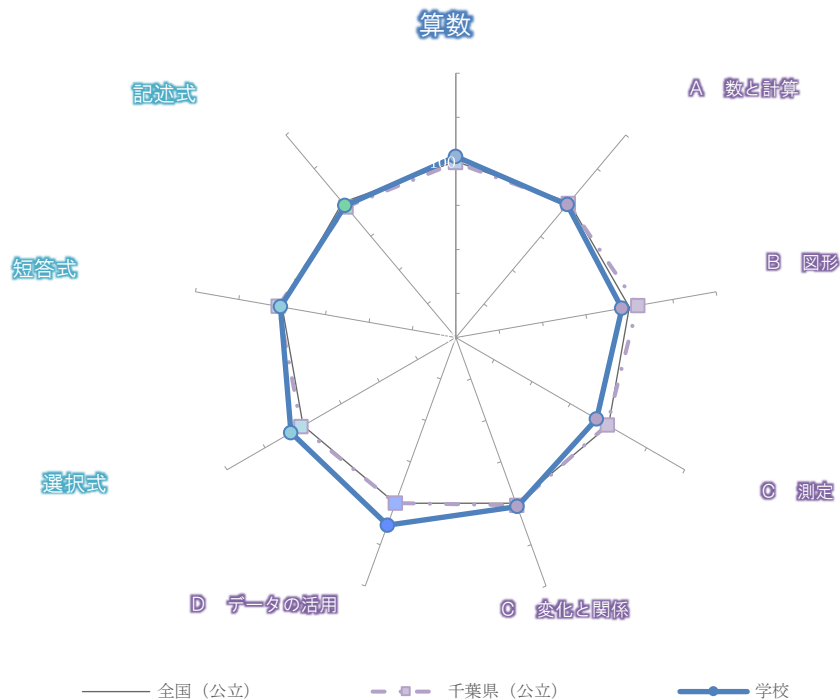
【特徴と現状】

- 資料を用いた目的を理解したり、目的や意図に応じ資料を使って話したりすることについての問題では、高い正答率が得られました。「話す・聞く」力は身に付いていると考えられます。
- 目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりする力も身に付いています。
- 漢字の書き取りでは、平均点は全国や県の得点を上回っていますが、「原因 (げんいん)」の漢字の書き取りについては、正答率がやや下回っていました。
- 自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考えることについては課題が見られました。

【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習などを通して漢字の読み書きが確実に定着するようにしてまいります。また、学習した漢字を短作文等で積極的に活用する場面を設けて、漢字を書き取る力が一層定着するよう努めてまいります。
- 資料を読み取る力は定着していることがわかりました。今後も、資料を読み取る学習を充実させるとともに、長文になったり複数のデータが混在したりしている資料でも内容をしっかりと読み取ることができるよう、児童の実態を見ながら、発展的な資料を扱った読み取り活動も取り入れてまいります。
- 「書くこと」については、各教科の授業において、書くという場面を設定し、どのように書けば読み手に目的や意図が伝わるかという指導をしてまいります。また、教師による添削も行い、きめ細やかな指導に努めてまいります。

算 数



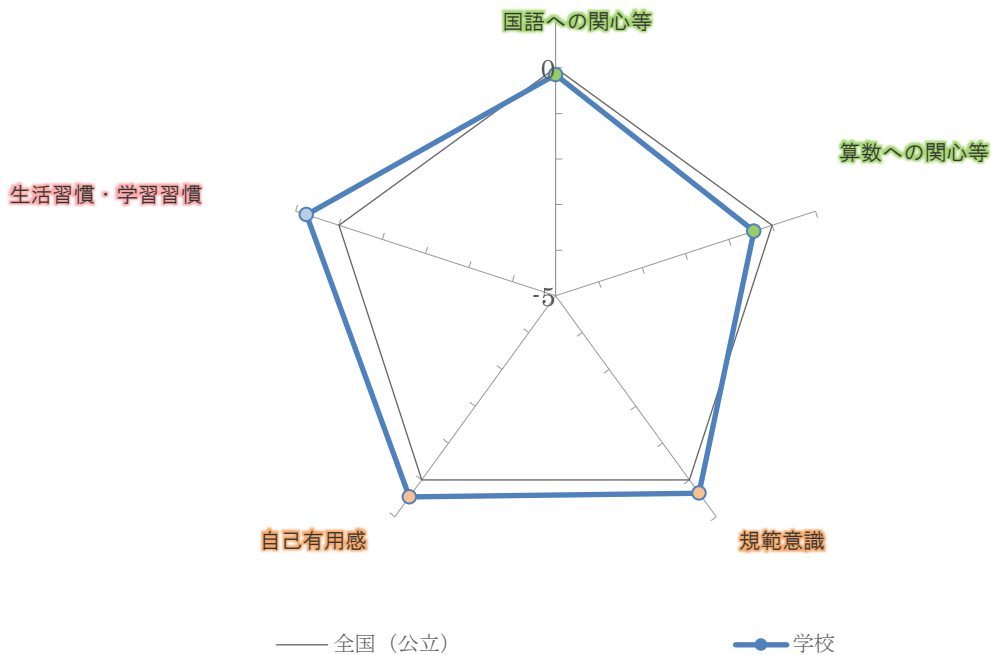
【特徴と現状】

- 棒グラフから数量や項目間の関係を読み取る問題では、高い正答率が得られました。グラフを読み取る力はしっかりと身に付いていると考えられます。
- 除法によって得られた結果について、日常生活の場面に即して判断する力が身に付いていることがわかりました。
- 商が1より小さくなる等分除の場面で、数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算することについて課題が見られました。割り算の意味についての理解をさらに深めていく必要があります。
- 「測定」の領域で、全国平均を若干下回りました。条件に合う時刻を求めたり、複数の図形を合わせた図形の面積について思考したりすることに課題が見られました。

【改善方策等】

- これからもドリル学習や「とみの国」検定の練習などを通して、基礎・基本的な計算力が身に付くように努めてまいります。
- グラフを読み取る力は身に付いています。今後は、基本的なグラフの読み取り方の指導に加え、より複雑なグラフを読み取ったり、データからグラフに適切に表現したりする発展的な学習も取り入れ、さらなる活用能力の向上を図ってまいります。
- 割り算では、商が1より小さくなる問題において、式に表して計算することに課題が見られました。「割り算は、割る数を1としたとき割られる数がいくらになるかを求める計算である」という理解を深めていけるよう、図や表、数直線などに表す活動を充実させてまいります。
- 測定の領域における力を伸ばすことができるよう、求めたい事柄について図や数直線等を使ったりICT機器を活用して視覚的な支援を行ったりするなど、授業展開を工夫してまいります。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」という児童の割合は、全国平均よりも高いことが分かりました。
- 「自分にはよいところがあるか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均よりも 12.8 ポイント上回っていました。自己肯定感の高い児童が多いことが分かりました。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」で「助けている」と回答した児童の割合は、全国平均を 12.3 ポイント上回っていました。人を思いやる気持ちをもつ児童が多いことが分かりました。
- 自分で計画を立てて勉強をしていますか」で「している」と回答した児童の割合は、全国平均を 19.8 ポイント上回っていました。学習の習慣が身に付いている児童が多いことが分かりました。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか・将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」で肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均よりも低い傾向にありました。算数の学習の有用性を実感させる学習を充実させていく必要があります。

3 まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めてまいります。また、自分の考えを文章に書く活動を一層充実させるとともに、児童の実態に応じて発展的な問題を扱ったり ICT機器を活用したりして、さらなる学力向上を目指すとともに学んだことの有用性を感じられる授業改善を継続してまいります。自己肯定感の高い児童が多いという結果が得られたことは、とても喜ばしいことです。今後も、自他を大切にする教育活動を継続してまいります。家庭での規則正しい生活習慣が身に付いている児童は、学力も高い傾向にあります。今後も、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣について、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。